令和２年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	大阪狭山市民への抗体検査（社会貢献事業）
研究者所属・氏名	研究代表者：近畿大学病院　病院長　東田　有智 共同研究者：近畿大学医学部　学部長　松村　到 近畿大学病院　感染対策室　室長　吉田　耕一郎 近畿大学医学部・病院事務局　局長　狩谷　和志

１．研究、開発・改良、提案目的･内容

目的：近畿大学病院が所在する大阪狭山市民に抗体検査を測ることで、今後必要な医療体制を予測することができ準備をすることができる。また、大阪狭山市と共同で事業をすることで、抗体検査の結果を感染症に対する警戒態勢や緩和のレベル・時期などの指針とすることができ、市民生活への打撃を最小限にした感染症対策を展開することができるとともに、市民の不安を払拭することにもつながる。

内容：大阪狭山市を通じて大阪狭山市民に抗体検査希望者の募集をし、応募者の中から 300 名を抽出し、近畿大学病院が定めた日時に来院し、通常診療とは別の場所において採血を実施した。新型コロナウイルス感染症や抗体検査の説明動画を YouTube 等で配信し、抗体検査の周知を行った。当日は非接触型検温計を利用し検温を実施し平熱の者だけ採血を実施。参加者には病院広報誌「コロナ特別号」とノベルティのウェットティッシュを配布・持ち帰りしてもらい感染防止の呼びかけと本院の取組みを紹介した。
採血した検体は近畿大学病院にて検査を行い、検査結果は大阪狭山市と近畿大学病院にて共有し、本人にも結果を通知した。応募時および検査時に検査結果を大阪狭山市と近畿大学病院にて共有することの同意を得た。

２．研究、開発・改良、提案経過及び成果

令和２年 6 月 29 日から 7 月 3 日にかけて、大阪狭山市において表記抗体検査の希望者から無作為に抽出し、本調査への参加に同意された大阪狭山市民の 300 人を対象に抗体検査を実施した。本調査では、クラボウの新型コロナウイルス抗体検査試薬キット(イムノクロマト法)を用いて、血中 IgG 抗体検査を行った。

結果
抗体検査実施予定者数：300 人
実際に抗体検査が行われた人数：278 人
IgG 抗体陽性者数：2 人
今回の調査における IgG 抗体保有率：0.72 %

考察
総検査数が少ないので、抗体保有率にはある程度、誤差が生じやすくなっているが、
今回の調査における IgG 抗体保有率は 0.72 %と、大阪狭山市民の大半の人が抗体を保有していないという結果であった。

3．本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

被検者に対し、以下の注意喚起を行った。

この調査は、過去に新型コロナウイルスに感染した人の割合を推定しようとするものであり、現在の感染を診断するための検査ではありません。
結果が陽性であっても症状がなければ隔離や受診の必要はありません。
また、結果が陽性の場合、2回目の感染を防ぐ効果があるかどうかは、現時点では不明です。
引き続き3つの密を避け、マスク着用と適切な手洗いの励行をお願いいたします。

4．研究成果の発表等

発　表　機　関　名	種類（著書・雑誌・口頭）	発表年月日(予定を含む)

5．開発・改良、提案課題の成果発表等

近畿大学ホームページに掲載。